

鯉のウキ釣りを楽しくしよう!

のべ竿に繊細な仕掛けで楽しむ鯉のウキ釣りは、へらぶな釣りと同じく、60cmオーバーの鯉が掛かった時の爽快な強い引きを堪能できる魅力は、鯉釣りならではのものではないでしょうか。時として1mを超える大型のレンギョウがヒットしたりするのも、釣りの技術を磨くことになりまします。へらぶな釣りと同じゲーム性を味わ



えるのも魅力のひとつです。

のべ竿だけでリールを使わないウキ釣りは、中、小物の鯉が対象です。大鯉狙いでは竿に小型の両軸リールをセットします。

鯉のウキ釣りの楽しみはウキの動きを見て、繊細なアタリを取るということですが、比較的ライトタックルを使用するため、鯉を掛けてからの爽快でスリリングなやり取りがウキ釣りの魅力です。

釣り方としては鯉の活性が高い時に、集中して釣ることが大切です。吸い込み釣りとは違ったウキ釣りの醍醐味を堪能してみてください。

ポイント

鯉のウキ釣りのポイントは吸い込み釣りと基本的に変わりません。流れがカーブしている所、障害物のある底の変化している場所、杭やテトラ回り、水門の吐き出し、水草の生えている場所などがポ



「浮子鯉」を使って釣れた良型の鯉。このサイズをウキ釣りで釣るとスリリングなファイトが楽しめる。

ウキ釣りのエサ作り

鯉のウキ釣りはいかに数多く釣果を上げるかということが楽しさの基本です。数多く釣るにはいかに鯉を寄せてくわせるかです。釣果を大きく左右するエサ作りで大切なのは、匂いによる強力な集魚効果です。付けエサはしっかりエサ持ちするようにネバリを出して使います。

◆浮子鯉

「浮子鯉」は流れやジャマにも強く明確なアタリ、食いを誘います。本流の流れのあるポイントでも、しっかりエサ持ち

して鯉のアタリを捕らえます。

◆天下無双

「天下無双」は釣り堀などを対象にしたウキ釣り用エサです。強力にバラけて鯉を寄せながら芯残りしてくわせます。

◆鯉タニシ

新発売の「鯉タニシ」は鯉の主食といわれるタニシを粉末にし、配合した新しいタイプのウキ釣りに最適なエサです。タニシ特有の匂いと味が、鯉を強力に寄せにくわせます。



エサを打ち込んで鯉を寄せた釣果が出て、アタリが明確にあり、連続で鯉が釣れた。

釣り堀などを対象にした「天下無双」

新発売の「鯉タニシ」は大鯉狙いに良い。



ウキ釣り



磯竿2~3号
5~5.4m

ミジイト：
アイロン4号
100m

小型両軸リール

釣り 鯉Q&A

鯉は日本人にとってなじみの深い魚です。釣りとして見ても、とても奥が深くだれでも楽しめる釣りです。

では、どうしたら鯉が釣れるのでしょうか？エサ、仕掛け、タックルなど様々な問題点があるでしょう。鯉という魚は、自然環境を生き抜くための知恵を有し、身の危険を察知し学習します。それに対して釣り人もエサや仕掛けに工夫を凝

らし、鯉との攻防を繰り返すので、釣果が上がると、鯉釣りが楽しめるようになります。エサと釣技についての疑問にお答えしましょう。

その1 釣技・タックル・ポイント編

Q1 川釣りのポイントの見極め、攻め方は、どうすればよいのでしょうか？

A 「二に場所、二にエサ、三に仕掛け」といわれるように、鯉釣りで一番難しいのはポイントの設定です。川の場合、水の流れがキーワードです。上中流の流れの強い中心にダンゴを投げて、すぐ流され釣りになりません。鯉が流れの中心を回避し、もじるのはエサを探しているのではないのです。エサ場はゴミが溜った乱杭など、流れの緩やかな岸寄りにあるのです。攻める場所は岸寄りとオモリを投げて探った川底のカケアガリです。

下流、河口付近の汽水域での注意点は、潮の満ち引きによる水位の変動です。エ

サを投入する時間と場所、釣果が大きく左右されます。

Q2 吸い込み釣りで竿の本数は何本がよいのでしょうか？

A 最近の鯉釣りは6本くらい竿を差べるスタイルが定着しました。竿の本数は個人の釣り方の問題で、的確なポイントを絞ることができ、攻める自信があれば、竿は1本でもよいのです。最初に6本竿を出し、沖目から岸寄りに



2mくらいの間隔でエサの打つ点を変え、鯉の通り道、ヒットポイントがわかれば他の竿は必要ないわけです。場所を取らない点からも3本くらいがよいと思います。竿先のアタリをみて釣るのであれば、竿はせいぜい2本まででしょう。

鯉釣り本来のわくわくする楽しみとは、竿先のアタリを見定め、飛びつく瞬間にあり、それから開始される淡水の王者との1対1の勝負こそが醍醐味なのです。

Q3 どんな天候が鯉釣りにはよいのでしょうか？

A 強風のさなか鯉釣りをしているアタリが頻繁にあり、巨鯉を釣った例があります。確かに無風のベタナギより、多少荒れ模様のように巨鯉が釣れるという話はよく聞きます。その原因はいろいろ考えられます。風により水中の酸素溶解量が増し、活性が上がるとか、鯉の警戒心が薄れるからと、よくいわれます。さらに、同じ気象状態が続くときより、風が吹き出す直前とか風の吹きは



じめ、雨の降りはじめ、風の止む直前など、天候の変わり目もまた、活性の上がることが多いようです。

Q4 冬は寒くて水温が下がりが、鯉が釣れないのでしょうか？

A 水温が下がる冬でも鯉は釣れます。しかし、水温が10度以下になると鯉の動きが鈍くなり、行動範囲が狭くなります。アタリも遅くなり、食いが極端に落ちます。釣りをする日が寒く

ても前日、暖かく水温があまり下がってなければ釣果があることもあります。冬は深場、オタ回りなど、鯉が集まってじっとしているポイントを狙いましょう。湖沼の湧き水がある水温の比較的温かい場所や水の動きがある大川が狙い目です。冬でも吸い込みエサで釣れますが、エサは特に気を使います。冬のエサとしては植物性の消化のよいサツマイモを大量に配合した「鯉将」や「イモ吸い込み」などがよいでしょう。

寒鯉釣りは防寒対策を万全に、風邪を引かぬように鯉釣りを楽しみましょう。

Q5 吸い込み仕掛けのハリ数は何本がベストなのでしょうか？

A そもそも、どの仕掛けにも長所・短所があるといえます。釣り人の考える仕掛けも年々進化しています。鯉を確実にハリ掛かりさせるためにハリの本数を変えたり、ハリスの長さを変えたり、吸い込み仕掛けも変わりました。吸い込み仕掛けのハリ数は、ひとつに投入

時のタンゴのバラケを防ぐ役目とのか合いもあります。ハリ数を増やすと根掛かりやトラブルの原因になるので、3〜4本くらいが一番よいようです。一本バリの根掛かりは少ないが、鯉がヒットする確率が下がります。

Q6 バラシ対策について聞きたいのですが？

A 「せっつかく大物を掛けたのにバラしてしまった」はよくある話です。バラさない秘訣は、ミチイトや仕掛けの点検を怠らないこと。そして、ハリを口にガツガツり掛けることです。そのためには、ハリ先のチェックをおこなわないようにしましょう。大物がヒットしてハリを伸ばされたら、ハリが折れたなどという話を聞きますが、鯉の口は大きいので、小さなハリを使って伸ばされるより、大きなハリの方が強度もあり安心です。ハリの形もそれぞれ長所、短所がありますが、最近のハリは強度もあり、形状も工夫されています。鯉がヒットしてもスッ



Q7 春のポイントと秋のポイントは違うのですか？

A 鯉も季節によって、よくアタる場所の違いはあります。しかし、

少し深いカカリを着き場にしてると仮定して、その住み家で食事をするのでなく、エサをとりに出かけるということですね。釣り対象は、着き場で休んでいる鯉ではなく、ガツガツと食い気満々の鯉なのは説明するまでもないでしょう。

春は浅場、秋は深場狙いで水温と鯉の活性を見て、ポイント、エサの打つ場所を見極めることが大切です。

Q8 底の質や水深にはこだわった方がよいのですか？

A 底がくさったヘドロとか極端に泥深いといった、よほど悪い条件以外はエサ場になります。春・秋は、比較的固めの砂泥や岩盤を攻め、冬場は固い岩盤よりも少し泥が多めの場所にポイント設定をするというのがセオリーです。また、藻周りは好ポイントですが、藻の上や中に打ち込むより、藻の切れ目、藻穴を探して、そこにエサを入れましょう。水深に関しては、前の質問でもお答えしたように、浅場にエサを求めて来るとはいつでも、その釣り場環境により一概に決定できません。ひとついえるのは、

Q9 どうしても遠投してしまいます。他の人たちも遠くに投げているのですが、遠投したものを獲ちたのでしょうか？

A 鯉のポイントは、必ずしも沖と限りません。とはいっても、遠投したくなるのが人情で、近場に打つのは勇気のいるものです。実際には、鯉も意外と岸近くの浅場でエサをとっています。特に静かな早朝や夜は足元まで来ていることが多いのです。

静かであるという条件つきですが、近場の同じ一点にエサを打ち、鯉を寄せて釣る方が効率がよいでしょう。沖に深場

基本的にはそれほど大きな移動をする魚ではありません。自分のテリトリー内で、春の産卵期に浅場のヨシや藻周りで卵を産み、あとは行動範囲内での移動に留まっているのが普通のようなようです。

決め手となるのは、それぞれの季節での水温と水の動き、酸素の溶解量、エサが豊富か、さらに外敵から身を守る場所があるかどうかでしょう。

春と秋の違いは、産卵という、少々のことにかまわってられない種族繁栄が優先の春と、冬に向かい、自分の気分を優先できる秋、となりましようか。すべての鯉がいつせいに産卵するのでなく、群れごとに波があります。産卵中は、エサをとりませんから、次に産卵する群れの待機場所近くを攻めます。波はあるものの、あくまで積極的な春の鯉に比べ、秋はだんだん消極的になる季節。鯉は15〜20度前後が適水温といわれますが、水温低下に向かうこの季節は特に敏感です。できるだけ快適な温度を求めて動きまわりますので、日によってポイントは微妙にずれます。



や桃、オグなど、鯉の着き場があれば、そこからエサをあざりに来ますから、自信を持って待つことです。

その2 エサのキモ編

Q1 吸い込みエサをつくるのに、市販のエサの種類が多すぎて迷ってしまおうのですが？

A 確かに多くの種類がありますね。そこで、各エサの特徴からある程度の分類をしてみましよう。

まず、粒エサが多く含まれたベースとなるもの。これには「巨鯉」「鯉師」「鯉パワー」「イモ吸い込み」「タニシ吸い込み」などがあり、大鯉狙いにじっくり待てるエサです。

そして、「大きい」「鯉のぼり」「荒喰」「鯉将」「五大魚」「スイミー」など、粒子の細かいもの。これらは、集魚効果もあり、ベースエサに配合することにより、魚を寄せる効果とともにネバリを出すつなぎ効果もあります。

また、「鯉武蔵」のようにサツマイモ



を多くするのです。

そのためにつくられたのが「巨鯉」「鯉パワー」「鯉パワースペシャル」「イモ吸い込み」などのエサです。これらのエサは、集魚を目的とした成分とじっくり待つための材料を、理想的な比率で配合してあるのです。保険としてのくわせエサは「手づくり芋」「いもさうかんずり」じっくり待ちましょう。

Q4 アタリがあるのですが、魚がヒットしません。ダンゴの固さに問題があるのでしょうか？

A 魚がヒットしない理由は本命の鯉ではなく、小魚などの外道とも

考えられます。恐らく魚の食い気やハリの甘さなどの原因があり、エサだけに問題があるとは限りません。ダンゴを投入し、しばらくして上げてみて、ダンゴがほとんど原形のままだったら、ダンゴの固さ、バラケにも原因があるのでしょうか。市販の吸い込み仕掛けのラセンに、いつでも練りエサがこびり付いているようではエサを練り過ぎです。粒子の荒いバ

主体で匂いを押さえた、巨鯉狙いのつなぎエサに過ぎたものもあります。もちろん粒のエサも単品で使えます。

さらに長時間底に残る効果を増大する「スーパー鯉むぎ」、集魚目的の強力添加材として「鯉にこれだ!!」があります。

まずベースエサを決めましょう。それに各エサの特性を考慮して配合するのがよいと思います。そのときに、寄せに重点を置くか、じっくり待つなら、自分なりの目的を持った配合を心がけてください。

Q2 自分のエサに自信がありません。どうすればよいのでしょうか？

A 確かに釣れないと、本当にこのエサで釣れるのか不安になります。釣れないからといってすぐ諦めないで、日にち、時間、場所を変え、その同じエサで根気よく待つことです。鯉は雑食性なので、特にエサを運び好みはしません。そのときの釣りの条件が悪かったただけなのです。一匹でも鯉が釣ればうれいものです。最初は魚影の濃い場所で、鯉



ラケの良い「鯉パワー」などがベストです。バラケ重視ではなく、ダンゴをわざと固くして長時間持たせて大物を狙う釣り方もあります。

Q5 投げるときにダンゴが空中分解してしまつたのですが？

A まず、エサの配合バランスの問題があげられます。粒エサの多い「巨鯉」などは練り加減が大切です。手水を付けてしっかり握り絞め、投入時に

の数釣りを楽しみながら、自分のエサに自信をつけましょう。

Q3 大鯉狙いで、あまり匂いの強くない植物性のエサがよいのでしょうか？

A 一般に、大鯉には粒エサと植物性のものを主体にして匂いを押さえる、とされています。なぜでしょうか？大鯉は植物性が好きで、育ち盛りの中小型ほど魚粉のような動物質が好きといわれたこともありましたが、しかし、今では、単純に個体数の多少による、と考えられるようになりました。中小型の鯉でも植物質のもので釣れますし、大鯉も動物性のもので釣られています。

要は確率の問題です。集魚効果の大きいエサは、数の多い中小型の鯉や小魚が先に集まり、エサを口にすると確率が高いということ。数の少ない大鯉狙いには、できるだけ小型に邪魔をされずに、大鯉が回避してくるのをじっくりと待つため、匂いを押さえた植物性のもを主体にし、長時間水底に残る粒エサの比率

割れないダンゴエサをつくりまわす。バラケのよいエサづくりは水分が少ないため、空中分解しやすいダンゴになりがちです。そこでベースとなるエサに「鯉将」や「鯉武蔵」など、ネバリのある配合エサをつなぎに使います。さらに鯉を寄せる効果がある「鯉のぼり」や匂いの強い「タニシ吸い込み」を使い釣果をあげます。

割れないエサにするには、水分の量が問題です。「巨鯉」「鯉パワー」は単品で使えるように最適な配合比率につくられています。水を入れすぎたり、少なすぎるとまとまりません。エサ袋に書いてある水加減を参考にしてください。空中分解しないためには竿を振るとき、やわらかく投入することも大切です。

Q6 発酵エサって何ですか？それってよいのでしょうか？

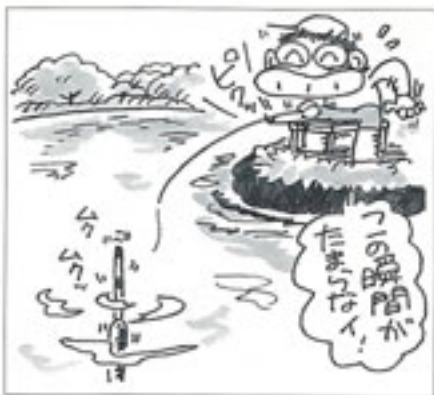
A 練りエサを発酵スチロールなどの容器に入れ、時間をかけて発酵させたエサです。発酵エサはすえたような独特の匂いで、魚を寄せる効果が強い

という理由で人気があります。「巨鯉」は発酵菌入りで釣り場で簡単に発酵エサがつくれ、手間要らずの最高のエサです。長時間待てるので大型狙いに人気のエサです。

Q7

見ていると、どうもウキ釣りよりぶっ込み釣りの方が大物が釣れるようですが…。

A 必ずしも質問ですね。ウキ釣りでもメーカークラスが釣れた記録は結構あります。ただ、もともと個体数



Q10

春夏秋冬や水温によって、エサの配合はどのように変えたらいいですか？

A 雑食性の鯉はなんでも食べます。そして、きびしい自然界ではエサの選り好みなどできません。

ですから、基本的には何ら変わらないと考えてよいのですが、水温が下がれば当然活性も低くなります。その日の条件や季節に関係なく、周年同じエサというのでは、餌がありませんし、率が悪くなるのも事実です。そこで、活性の低い鯉の気を引く工夫が必要になります。

こんなときこそ、集魚力の強い「スイミー」や「鯉にこれだ!!」の出番です。水温の高い、春～中秋の頃は小魚の動きも活発なので、動物質や集魚効果の強いものは控えるにした方がよいでしょう。活性の低いときには、集魚効果の高い「大食い」「鯉のほり」などを多くするのがコツです。冬の低活性期に限ったことではなく、ハイシーズンでも、食いが今ひとつのときは、これらのエサを多めにして

が少ない大鯉ですから、長時間待つことのできるぶっ込みの方が、超大物には少し有利かもしれません。けれども、ウキ釣りは、魚を自分のウキ下に集める攻めの釣りです。勝負が早いのです。「ゲームフィッシング」的要素が強い面白い釣りです。竿も細身ですから、魚の引きを何倍も楽しめます。エサも「浮子鯉」や「天下無双」「鯉タニシ」など、ウキ釣りにブレンドされたすばらしいものがつくられています。今後もっと盛んになって欲しい鯉釣りのスタイルですね。

Q8

川と止水域のエサの違いを教えてください。

A 鯉釣りでは、エサ、釣法にもなって仕掛けも変えることが多いのです。河川でも流れのない場合は、止水域とほとんど同じでよいのですが、流れがある場合、吸い込みオンリーよりもくわせエサで釣るといった方がよいと思います。ラセンをタンゴでくるみ、1本バリか2本バリに「手づくり字」「い

攻めの釣りを心がけましょう。

Q11

吸い込み釣りで「バラケがよくて長時間持つエサがよい」といわれますが、矛盾していませんか？

A よく、バラケがよいエサと、とけやすいエサとが勘違いされますが、バラケのよいということは、水中でいつまでもタンゴ状態でありつづけないということですね。つまり、すみやかにとけるということ、とけてなくなるのではなく、吸い込み時、そして長期間残るといふことは、荒い粒子のものがハリの周辺にとどまるということを意味します。ですから「早くバラケて底に長時間残る」というわけですね。

Q12

バラケのよいダン「エサ」への「コツ」は？

A バラケのよいエサは「巨鯉」「鯉パワー」「スベシヤル」「鯉福」など、荒粒のペースのエサに「鯉のほり」「鯉武蔵」「荒喰」などの匂いとネバリがあ

もようかん」をセットするのもよいでしょう。湖沼では吸い込み釣りの効果は絶大ですが、流れ川ではタンゴを寄せエサにしたくわせ釣り、というイメージでよいと思います。

Q9

1年を通してウキ釣りを楽しんでいます。寄せるのがいまいちと下手のようです。何かコツはありますか？

A 最初はまず、寄せること、アタリを出すことに専念します。寄せに徹するということは、早くバラケる(溶ける)寄せエサを数多く打ち返すことです。そして重要なのは、エサの付け方です。ハリに丸く付けるのではなく、角を付けたバラケやすいエサを付けます。鯉が寄り始めると泡づけがあつたり、ウキにモヤモヤと濡れが出てきます。ウキに変化が出たら、エサをきちんと丸めてハリ付けし、食いアタリを待てるようにします。スレをかいいたり、やり取りでパラッとせつかく寄せた鯉も散ってしまふので、明確な食いアタリで確実にハリ掛かりさせるのがポイントです。



り、寄せ効果があるエサを配合してつくります。さらにより強力な集魚力を高めるため「鯉にこれだ!!」「さなき粉」などの添加材を加えるとより効果的です。

エサつくりのコツで肝心なのは、練り込み過ぎないということです。水中で砂がくずれるように散らばることが重要です。練るのではなく、水分を含ませそれをシメる、あるいは握り固めるといった方がよいでしょう。バケツでバサバサッと水分をなじませ、手に水をつけてギューッと握りシメる。おにぎりの要領ですね。

釣り人、一人ひとりの心がけが大切 美しい自然に抱かれて釣りを楽しむ

景色の美しい釣り場で竿を出そうと思ったら、ゴミが捨てられてある。せっかく釣りを楽しもうと思っても、それだけで自然を満喫しながら、釣りを楽しむ気分が薄れてしまいます。

きれいな釣り場で、釣りを楽しむために、自分の出したエサの空袋やゴミは必ず持ち帰りましょう。

むやみにゴミを捨てていくと、自分たちが釣りを楽しむフイールドを、自ら失うはめになりかねないので、自分の出したゴミを持ち帰るだけでなく、釣り場を汚してしまったり、きれいに掃除して帰ります。明日の釣り場を、自然を守りましょう。

鯉という言葉がもてはやされる現代、釣り人とのコミュニケーションをはかり、仲良



く鯉釣りを楽しみたいものです。それには釣り人、一人ひとりの心がけ、思いやりの心が大切です。

鯉釣りのエサやタックルの進歩は著しいものがあり、鯉釣りのスタイルも変化しました。釣技も上達して鯉がたくさん釣れるようになりました。

大鯉を釣るロマンに夢を馳せ、美しい自然に抱かれて、鯉釣りを楽しみたいものです。いつまでも釣り人に夢を見させてくれるように、鯉をできるだけやさしく大切にしましょう。

マルキニューでは、釣り人の皆さまに愛されるエサ、地球環境にやさしいエサづくりのため、研究を重ねております。釣り人の声に耳を傾け、だれでも気軽に楽しめる鯉釣りのお手伝いをするつもりです。今後とも、マルキニューのエサをよろしくお願いたします。

アタリが続く! 興奮が続く!



鯉の好物・**タニシ**が入った、**吸い込み用エサ!**

大粒のタニシと特大のタニシ、そんなタニシの粉末と、特選加工済みタニシペレットを配合したのが「タニシ吸い込み」です。動物性ペレットもたっぷり入って、強力に餌を吸い込む吸い込みエサ。投入後、早いタイミングでアタリが期待できます。

●タニシ吸い込み ¥800

タニシ
大量配合!

タニシ成分を配合した、ウキ釣り用エサ!

遠慮にバラけてしっかりと芯を通す、ウキ釣り専用エサ。特選加工のタニシを配合、新選ウキ、遠慮や釣り場など、あらゆる場所に対応、強力に餌を寄せ、食わせます。吸い込みエサにフレンジでも、抜群の集魚効果を実現します。

●鯉タニシ ¥400



ついでにエササーブリー筋
丸マルキニュー
<http://www.marukyu.com/>

本社 横浜工場 埼玉県川口市東部2-4 〒363-8509
TEL: 048-728-0909(代) FAX: 048-728-3939
大阪支店 大阪府東淀川区東中津島12-14 〒572-8611
TEL: 072-824-0909(代) FAX: 072-825-0939

四国支店 香川県高松市西大塚2-4-31 〒762-0253
TEL: 0877-44-2809(代) FAX: 0877-44-3939
九州支店 福岡県高橋町地方341-8 〒841-0323
TEL: 0942-82-9909(代) FAX: 0942-83-0939